



2026.4.23

Vol. 72

# 北海道サケ ネットワーク Newsletter

発行 阿部周一  
事務局 高橋壽一 札幌サケ協議会  
〒006-0004  
札幌市手稲区西宮の沢4条2丁目  
2-20-221  
Tel/Fax: 011-681-4268  
E-Mail: jaytaka@carrot.ocn.ne.jp  
URL: <http://salmon-network.org/>  
編集 寺島一男

雪解けが急速に進み、桜前線の到来が早まるなど、一足飛びに春がやってきました。北国に住むものにとって春は待ち遠しい季節ですが、その早まりの背景や要因を考えると素直に喜べない現実もあります。とはいえ、やはりそこかしこで咲き誇るカタクリやエンゴサク、フクジュソウなどを見ると心が躍ります。

昨年の秋、旭川市で北海道サケ会議を開催いたしました。皆様のご協力により無事成果を残して終えることができました。改めて感謝申し上げます。



## INFORMATION

北海道サケネットワークの2026年度総会及び北海道サケ会議の開催概要ができましたのでご案内いたします。

日程: 6月6日(土)14:00~17:00

会場: 札幌市男女共同参画センター  
(札幌エルプラザ)4階中研修室  
〒060-0808  
札幌市北区北8条西3丁目

### ネットワーク総会

総会は事前に書面協議で別途行います。

役員会 13:15~13:45

総会 14:00(書面協議の報告)

### 北海道サケ会議

#### ■テーマ

「サケの未来と私たち」

#### ■趣旨

気候変動下で急速に進む海洋環境の変化は、とくに日本系など南限のサケマスの自然史、資源に大きな影響を及ぼしている。

サケマス来遊数の最近の激減は、北日本の水産業に甚大な被害を与えると共に、遡上河川のある地域の生物環境を変えて鳥獣害の増加など私たちの生活にも影響を与えることが懸念されている。

そこで今回は、「サケの未来と私たち」をテーマに、サケマスの自然史や資源のゆくえんについて、さらにはその未来

をどうやって守っていくのか専門家の方々に解説して頂く。

#### ■開会挨拶・趣旨……14:00~14:10

阿部周一氏

(北海道サケネットワーク代表)

#### ■講演……14:10~16:10

・どうなるサケマスの自然史・回遊経路

上田宏氏

(北海道大学名誉教授)

・どうなるサケマス資源

佐藤俊平氏

(水産研究・教育機構 水産資源研究所さけます部門 資源生態部長)

・どう守るサケマスの未来

卜部浩一氏

(北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場研究主幹)

#### ■総合討論……16:10~17:00

司会: 浦野明央氏

(北海道サケネットワーク顧問)

#### ■閉会……17:00

### 懇親会

時間: 6月6日(土)17:15~

会場: 山わさび北8条店

札幌エルプラザ地下1階

(サケ会議会場と同じビル)

※参加申込者のみ



## 石狩川でサケ稚魚放流

—第43回サケ出発式—

「サケちゃん、必ず帰ってきてね」「頑張ってきてね」子どもたちの声援に送られてサケ稚魚が、3月29日(日曜日)石狩川の旭橋下流から旅立ちました。

旭川の風物詩として市民に親しまれているこの行事は、「大雪と石狩の自然を守る会」と「あさひかわサケの会」が、毎年この時期に行っているもので、43回目を迎えた今年は約200人が参加しました。

放流に先立ち、「旭川アイヌ協議会」と「川村カトアイヌ記念館」によるカムイノミが行われ、豊かな川の恵みに感謝し無事の回帰を願うイナウが石狩川に投げられました。

放流は、市内のこども園・幼稚園・小学校・家庭など26箇所、受精卵から育てられた稚魚約2683尾のうち、1785尾がこの日放流されました。

旭橋のすぐ上流に位置する花咲大橋右岸上流には、人工産卵床5基が設置され約2万2000粒の受精卵が埋設されており、そこで育った稚魚と一緒に下降できるといねとの声も聞かれました。



# 《報告》 2025 北海道サケ会議 —野生のサケを考える市民のタベ

## 開催の概要

昨年 10/25(土)から 2 日間にわたって、野生のサケをテーマに「北海道サケ会議」が、旭川市科学館(サイパル)を主会場に開かれました。

「北海道サケネットワーク」が主催し、「大雪と石狩の自然を守る会」と「あさひかわサケの会」が主管しました。旭川での開催は、2011 年、2018 年に引き続き 3 回目となりました。

初日は、旭川市障害者福祉センター(おびった)会議室でサケネットワークの役員会(12:00~13:00)、旭川市科学館学習研修室で講演会(14:00~17:00)が開かれ、夜は居酒屋「九番目」で交流会(18:00~21:00)が持たれました。

翌日は、現地見学会(8:30~13:00)で、①川村カ子トアイヌ記念館 ②嵐山展望台 ③忠別川取水堰(魚道) ④忠別川北彩都の 4ヶ所で行われました。

幸い両日とも天気に恵まれ、当日の参加者は役員会 7 名、講演会 35 名、交流会 21 名、現地見学会 23 名となりました。



## サケ会議

会議では、北海道サケネットワークの阿部周一代表が開催の趣旨とその経緯を含めて歓迎の挨拶をされたあと、『野生のサケの魅力~更なる北海道の豊かな川を目指して』と題して、野生鮭研究所の小宮山英重さんが基調講演をされました。

続いて石狩川と豊平川でそれぞれ野生サケの回復を進める、大雪と石狩の自然を守る会の寺島一男代表と「札幌ワイルドサーモンプロジェクト」の有賀望共同代表が、現地での取り組みを報告しました。



その後、参加者の間で『野生のサケを考える』をテーマに意見交換が行われ、短い時間ながらも活発な意見が出されて有意義な会議となりました。

小宮山さんは、北海道の淡水魚は「通し回遊魚」の割合が高く、海の栄養を内陸に運ぶ大きな役割を果たしており、回遊径路、生育場所、繁殖場所の保全が重要であると指摘されました。

北海道の河川の問題点は、20 世紀の後半、特に 1970 年代から 1980 年代は、平地の河川の流路が直線化・排水路化されたことで、その影響がいまも色濃く残っており、網走地方では 21 世紀に入って直線化された河道を蛇行河道へ変化させ、その河川形態を維持・保全する治水事業が展開されていると紹介しました。

河川自体の改善だけではなく、河川を取り巻く環境の改善も進んでおり、バクテリアを活かした生活様式の確立に向けた小清水町や津別町の取り組みも紹介されました。



## 現地見学会

見学会は、JR 旭川駅南コンコースに集合したのち車に分乗して移動し、点在する見学地を回った後、北彩都で解散しました。

展示がリニューアルされたアイヌ記念館では、川村久恵副館長がアイヌ語の紹介を含めながら、上川アイヌとサケやクマとのつながりについて話されました。

大雪山を背景に上川盆地を一望できる嵐山展望台では、盆地に流れ込む石狩川本流、支流の忠別川、美瑛川、オサラッペ川などを眼下に、サケの遡上環境や産卵環境の改善について見学者の間で意見交換が行われました。

忠別川の東神楽町との境界にある旭川市の上水堰では、機能していない魚道の現状を観察するとともに、改善の方策などが話し合われました。

最後の見学地場所となった駅前南側の再開発地・北彩都では、前年に行われた「大池」取水のための忠別川河川工事の現状や河川改修後のサケ産卵の環境について意見交換が行われました。

北彩都は忠別川に遡上するサケやサクラマスの産卵床が集中する一角で、出来たての産卵床を前に小宮山さんから、産卵の生態や産卵床の形成・構造についてレクチャーを受ける一場面もありました。

サケ会議の様子は NHK が取材し、ニュース番組として報道されました。

